



2022年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2022年1月13日

上場会社名 株式会社東天紅 上場取引所 東
 コード番号 8181 URL https://www.totenko.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)小泉 和久
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理部長 (氏名)佐藤 昇 (TEL)03(3828)6272
 四半期報告書提出予定日 2022年1月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年2月期第3四半期の業績(2021年3月1日~2021年11月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第3四半期	1,335	12.1	△746	—	△40	—	△451	—
2021年2月期第3四半期	1,191	△75.6	△1,369	—	△1,203	—	△1,487	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第3四半期	△175.74	—
2021年2月期第3四半期	△579.10	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年2月期第3四半期	11,754	7,615	64.8
2021年2月期	12,180	8,073	66.3

(参考) 自己資本 2022年2月期第3四半期 7,615百万円 2021年2月期 8,073百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年2月期	—	0.00	—	—	—
2022年2月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

期末の配当につきましては、今後、業績の動向を勘案して決定してまいります。

3. 2022年2月期の業績予想(2021年3月1日~2022年2月28日)

2022年2月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルスによる影響を現段階において合理的に算定することが困難なことから未定としております。合理的な予想が可能となった段階で速やかに開示いたします。

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年2月期3Q	2,572,871株	2021年2月期	2,572,871株
② 期末自己株式数	2022年2月期3Q	4,540株	2021年2月期	4,508株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年2月期3Q	2,568,347株	2021年2月期3Q	2,568,400株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P2「（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(追加情報)	6
(セグメント情報等)	6
(重要な後発事象)	7
3. その他	7
継続企業の前提に関する重要事象等	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が断続的に繰り返され、長期にわたり、経済活動が制限されました。また、感染再拡大への警戒感から、依然として予断を許さない状況が続いております。

当社では、お客様並びに従業員への新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、休業や時短営業を実施しております。

当社の新型コロナウイルス感染予防対策は、従業員の家族を含めた健康チェック等の従業員感染防止対策に加え、お客様並びに従業員の安全・安心のため、客席の間隔の確保、料理のお取り分け、飛沫感染防止のための透明アクリル板設置等、各自治体の安全対策認証制度に適合する認証店となり、感染防止対策を徹底いたしました。

これらの対策を継続して実施すると共に、安全・安心なスペースをご提供することを、より多くのお客様にご案内し、業績の回復に邁進してまいります。

まず、グリル及び少人数のお集りを中心にネット媒体対応の強化に努めてまいりました。

そして、ご家庭で味わえる『おうちで東天紅』においては、お客様の声を反映し、商品内容を拡充すると共に、便利な小分けパックを採用するなど、EC事業の販路拡大に注力いたしました。さらに、宴会の代替としてご利用いただけるようセールス活動を展開しております。また、新型コロナウイルス対策として、オンラインセールスを導入したセールス活動を活発化してまいります。

一方、2021年3月、オーナーの周辺地域開発計画に伴い、「高輪店」を閉鎖いたしました。

また、管理面においては、賃料等の固定費を含めたあらゆるコストの圧縮及び変動化を進めると共に、各店舗においては、営業日・営業時間の見直しを図り、店舗の特性に応じた営業時間を設定し、経費削減に取り組んでまいりました。

結果として、当第3四半期累計期間の売上高は、新型コロナウイルスの影響により、前年同四半期比12.1%増の13億3,523万円、営業損失は7億4,679万円（前年同四半期は営業損失13億6,961万円）、助成金収入により経常損失は4,044万円（前年同四半期は経常損失12億397万円）にとどまりました。また、臨時休業等による損失6億3,092万円を計上した結果、四半期純損失は4億5,134万円（前年同四半期は四半期純損失14億8,737万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第3四半期累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

①飲食業

飲食業におきましては、上記の理由により、売上高は前年同四半期比13.9%増の11億9,870万円、営業損失は7億8,563万円（前年同四半期は営業損失14億383万円）となりました。

②賃貸業

賃貸業におきましては、前年同期並みで推移しており売上高は2.0%減の1億3,653万円、営業利益は3,884万円（前年同四半期は営業利益3,422万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ4億2,647万円減少いたしました。

これは主に、借入の実行及び店舗閉鎖による敷金の返還等により現金及び預金が8,200万円増加並びに緊急事態宣言解除後の営業再開により売掛金が1億8,680万円増加したことなどにより、流動資産が1億5,356万円増加、固定資産が減価償却費の計上及び店舗閉鎖による敷金の返還等により5億8,003万円減少したことなどによりです。

負債は、前事業年度末に比べ3,172万円増加いたしました。

これは主に、借入金が増加並びに営業再開により買掛金が8,389万円増加、納税猶予満了分の納付等により未払金が2億1,124万円減少したことなどによりです。

純資産は、前事業年度末に比べ4億5,819万円減少いたしました。

これは主に、四半期純損失4億5,134万円の計上などによりです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年2月期の業績予想数値は、新型コロナウイルス感染症の影響で先行きが不透明なことに加え、政府による緊急事態宣言が長期にわたり継続され、営業時間短縮や休業等の影響により合理的な算定が困難なこと並びに宣言解除後の集客の見通しが立たないため、引き続き未定とさせていただきます。

今後、業績予想の公表が可能となった時点で速やかに開示いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年2月28日)	当第3四半期会計期間 (2021年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	609,229	691,236
売掛金	57,375	244,183
商品及び製品	4,847	6,276
原材料及び貯蔵品	42,372	44,194
前払費用	47,111	47,742
その他	318,588	199,456
貸倒引当金	△300	△300
流動資産合計	1,079,224	1,232,789
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	4,297,676	4,090,403
土地	4,982,303	4,982,303
その他(純額)	197,682	142,358
有形固定資産合計	9,477,661	9,215,065
無形固定資産	2,155	1,896
投資その他の資産		
投資有価証券	95,895	86,142
差入保証金	1,297,288	981,930
その他	228,660	236,590
投資その他の資産合計	1,621,844	1,304,663
固定資産合計	11,101,661	10,521,626
資産合計	12,180,885	11,754,415
負債の部		
流動負債		
買掛金	14,276	98,172
短期借入金	1,937,400	2,287,400
未払法人税等	108,000	75,000
賞与引当金	16,800	1,400
関係会社事業損失引当金	26,000	—
その他	586,729	401,037
流動負債合計	2,689,206	2,863,009
固定負債		
長期借入金	607,150	477,850
長期未払金	67,544	67,544
繰延税金負債	6,408	3,424
再評価に係る繰延税金負債	129,796	129,796
退職給付引当金	586,862	574,429
その他	20,665	23,305
固定負債合計	1,418,427	1,276,349
負債合計	4,107,633	4,139,359

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年2月28日)	当第3四半期会計期間 (2021年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,572,092	2,572,092
資本剰余金	6,561,688	6,561,688
利益剰余金	353,507	△97,841
自己株式	△10,066	△10,145
株主資本合計	9,477,221	9,025,793
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	14,534	7,766
土地再評価差額金	△1,418,503	△1,418,503
評価・換算差額等合計	△1,403,969	△1,410,737
純資産合計	8,073,252	7,615,056
負債純資産合計	12,180,885	11,754,415

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2020年3月1日 至2020年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自2021年3月1日 至2021年11月30日)
売上高	1,191,469	1,335,237
売上原価	798,339	722,951
売上総利益	393,130	612,285
販売費及び一般管理費	1,762,741	1,359,079
営業損失(△)	△1,369,611	△746,793
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	2,287	2,281
未回収商品券受入益	929	1,067
保険配当金	1,825	1,671
貸倒引当金戻入額	600	—
助成金収入	181,667	729,541
その他	1,679	2,110
営業外収益合計	188,992	736,676
営業外費用		
支払利息	12,675	17,824
設備休止費用	—	9,200
その他	10,684	3,303
営業外費用合計	23,360	30,329
経常損失(△)	△1,203,979	△40,446
特別利益		
助成金収入	152,641	239,392
特別利益合計	152,641	239,392
特別損失		
固定資産除却損	32,121	9
店舗閉鎖損失	64,564	7,698
臨時休業等による損失	312,038	630,925
関係会社事業損失引当金繰入額	19,000	—
特別損失合計	427,725	638,632
税引前四半期純損失(△)	△1,479,063	△439,686
法人税、住民税及び事業税	12,057	11,662
法人税等調整額	△3,747	—
法人税等合計	8,309	11,662
四半期純損失(△)	△1,487,373	△451,349

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積りについて)

前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		
	飲食業	賃貸業	計
売上高			
外部顧客への売上高	1,052,144	139,324	1,191,469
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	1,052,144	139,324	1,191,469
セグメント利益又は損失(△)	△1,403,833	34,222	△1,369,611

(注)セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期損益計算書の営業損失(△)と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		
	飲食業	賃貸業	計
売上高			
外部顧客への売上高	1,198,703	136,533	1,335,237
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	1,198,703	136,533	1,335,237
セグメント利益又は損失(△)	△785,634	38,840	△746,793

(注)セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期損益計算書の営業損失(△)と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、従来、賃貸業を付随的な収益を獲得する事業にすぎないことから、単一セグメントとして、セグメント情報の記載を省略しておりましたが、第1四半期会計期間より、「賃貸業」について事業セグメントとして識別し、報告セグメントを「飲食業」及び「賃貸業」の区分に変更することとしました。

なお、前第3四半期累計期間のセグメント情報は、当第3四半期累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、政府、自治体による「緊急事態宣言」の発出による店舗の営業休止及び営業時間の短縮等、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、前事業年度に引き続き、当事業年度においても売上高が著しく減少し、重要な営業損失、経常損失及び当期純損失並びにマイナスの営業キャッシュ・フローを計上する可能性があることから、現時点においては継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、当社の当第3四半期会計期間の現金及び預金の残高に加え、2020年6月の30億円の当座貸越枠の設定及びその後の契約更新により、合計で当座貸越の未実行残高28億円と当面の資金を確保していることから、重要な資金繰りの懸念はありません。

従って、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

なお、当該事象又は状況の解消のため、コスト圧縮、雇用調整助成金や感染拡大防止協力金の申請等の対策を実行すると共に、宴会等の自粛の代替案としてホームパーティーや大切な方への贈り物、企業の忘新年会・歓送迎会・打上げ代わりのお食事など新しい生活様式でもお届けできる商品として「おうちで東天紅」の販売を開始し、メニューの充実化、EC事業の販路拡大に取り組んでおります。また2021年9月30日の緊急事態宣言解除を受け、各自治体からの要請内容に従って感染防止対策を十分に行ったうえで店舗の特性に応じた営業をしております。